

第19課 近所付き合い（その3）

1. この課のねらい

この課でも、近所付き合いをめぐるいくつかの場面を取り上げるが、特にこの課では、誘いや依頼などを断ること、あるいは、謝するという行動に伴う言語表現を中心に学習させる。その際の理由の述べ方は特に重要である。

- (1) 頼まれたことを、理由をあげて丁寧に断る。
- (2) 新聞の勧誘を断る。
- (3) 立ち話などを適当な折に切り上げて別れる。
- (4) 隣の人などに苦情を言われたときの謝り方。

2. 学習項目とその扱い方

〔会話Ⅰ〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○わたし、まだ 日本語が よく できないので…。(6) ○それに 町内会のことも まだ よく 分からないんで、いつも 山本さんに 教えていただいているんです。(6) ○できたら、ほかの方に お願いできませんでしょうか。(6)	○今日は ちょっと お願いが あって 来たんですが。(3) ○実は 町内会の役員のことなんです、これ みんなが 順番に やることになっているんです。(5) ○で、来年は、林さんの番なんですが、お願いできませんか。(5)
重 要 項 目	○申し訳ありません。(8)	

(2) 準備

依頼内容をかえた応用会話を作り、テープに録音しておく。

(3) 導入

「町内会の役員をしたことがありますか」「頼まれたことがありますか」など、話題に関連した質問をする。

(4) 練習

- ①会話本文のテープを聞いて、林さんの部分については言えるようにする。特に、どのような依頼の内容だったかを確認する。
- ②次に、教授者が頼む側になって、ロールプレーを行う。
- ③「～ことになっている」については、「家賃はいつ払いますか」「燃えるごみはいつ出しますか」「燃えないごみはいつ出しますか」などの質問をして、理解できているかどうか確かめる。
- ④〔1. 表現練習〕は、特にこの段階では練習する必要はない。「いつも」と「いつでも」の違いなどを説明しても、学習者に混乱を招くだけであるし、学習者の自発的な発話の中に出てきたときに取り上げればよい。

〔会話－2〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○あのう、わたし 中国から 帰国 してきたばかりなので、まだ、日 本語が よく 読めないんです。 (7)	○毎朝新聞 とってもらえませんか。 (6)
重 要 項 目	○はい、どちらさまでですか。(1)	

(2) 準備

新聞の勧誘場面以外の応用会話を考え、テープに録音しておく。例えば、化粧品のセールスマンが来たというような場面を考えてもよい。

(3) 導入

「新聞はとっていますか」、新聞をとっていない場合は「なぜとっていませんか」「新聞の勧誘はよく来ますか」「新聞は読みますか」などと質問して予習の程度を確認する。

(4) 練習

- ①会話本文のテープを開き、繰り返させて内容の確認をする。
- ②定着したと思われたら、ロールプレーを行う。教室であれば、実際にドアをノックするところから始める。
- ③次に、用意した応用会話のテープを開き、「どんな場面ですか」「だれが何をしていますか」「どうやって断りましたか」などと質問する。

〔会話－３〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○あつ、わたし ちょっと クリーニング屋さんに 寄らなければなりませんので。(3)	
重 要 項 目	○ずいぶん 寒くなりましたねえ。 (1)	○じゃ、ここで。(4)

(2) 準備

この会話の類似場面として、朝の出勤途中あるいは昼食時などに、近所の人や知り合いに会ったときを考え、応用会話を作りテープに録音しておく。

(3) 導入

特になし。

(4) 練習

①会話本文のテープを聞いて内容の確認をし、繰り返す。

②教授者と学習者としてロールプレーを行う。

③次に、用意した応用会話のテープを聞かせ、場所、登場人物の関係などについて質問する。余裕があれば、同じような場面を考えて練習をするとよい。

〔会話－４〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○どうも 気がつきませんで。(2) ○今、片付けますので。(6)	○この箱 ちょっと どけていいですか。(1)
重 要 項 目	○物置に 入れて、整理しようと思ってるんです。(4)	

(2) 準備

苦情を言われる場面の応用会話を考え、テープに録音しておく。

(3) 導入

教室にある物を使って、最初の「すみません。これちょっとどけていいですか」という部分を教授者が言い、それに対する答え方をみる。

(4) 練習

①予習が十分であれば必要ないが、会話本文のテープを聞き、どんな場面か、なぜ苦情を言っているかなどを確認し、林さんの部分については繰り返す。

②〔2. 表現練習〕を、その途中で行ってもよい。〔2. 表現練習〕で形の練習が終わったら、次のような練習をする。

例 学校へは、いつ行きますか。→はい、明日行こうと思っています。

この本は、いつ読みますか。→はい、明日読もうと思っています。

③準備した応用会話のテープを聞かせ、どこで、だれに、なぜ、苦情を言われているか質問し、そのとき、自分だったらどう謝るか考えさせる。

3. 文型・文法に関する参考事項

(1) 「こと」を含む表現

今まで、「こと」を含む慣用句をいくつか学習した。その中の代表的な用法をまとめる。

①「～ことがある」

この表現で気を付けるべきことは、次の二つの形の意味の違いである。

1. 行くことがある。(現在あるいは将来、起こる可能性があること。)

2. 行ったことがある。(これまでに経験したこと。)

②「～ことにする／～ことになる」

「～ことにする」は、自分の意志で習慣、計画などをかえたり、あるいは、新たに決めたということを表す。

これに対して「～ことになる」は、自分の意志以外のものによる決定であることを示す。

(2) 「う／よう／つもり」など、意志・予定の表現

「う／よう」も「つもり」もともに意志・予定を表すと言われるが、必ずしも同じことを表すのではない。その違いは、「う／よう」は、例えば、「昨日遅かったから、今日は早く帰ろう。」という文は、この文を言っているときのみの意志であるのに対して、「つもり」の方には、発話以前からそういう意志を持っているという含みがあって、やや持続的である点にある。

また、「う／よう」は意志をそのまま表すものとなるが、「つもり」は意志をそのまま表すものではなく、やや客観的なものと言ってもよいものである。したがって、「う／よう」を使って客観的に表現しようとすれば、「～う／ようと思っている」となり、これは「～つもりだ」と、ほぼ同じ働きを持つことになる。